

## ブラジル

景気  
(実質)  
GDP

Q1 GDP成長率  
**-5.4%**  
前年同期比

### [マイナスながら予想上回る]

力強い輸出に加え、ルセフ弾劾前の世論支持狙いの政府支出拡大が寄与、予想上回る。テメル暫定政権から辞任相次ぎ、政治不透明と景気低迷長引く公算。

物価  
(CPI)

5月インフレ率  
**+9.32%**  
前年同月比

### [再上昇]

公共料金含む住宅関連費の高騰が影響。中銀目標上限の+6.5%を上回るインフレの高止まりで、利下げ期待遠のく。

金融  
政策

**14.25%**

### [7会合連続据え置き]

インフレ高進で緩和余地なし。次期総裁ゴールドファイン氏もトンビニ総裁の意向引き継ぎ、物価抑制を最優先すると表明。

国際  
収支

5月貿易収支  
**+64**  
億米ドル

### [通貨安で輸入増]

レアル下落に後押しされ、乗用車などの完成品輸出が増大。一方で原油安により燃料等の輸入額が減少、黒字幅拡大。

為替

〈騰落率〉

	(5月末)	1か月間 (4月末)	3か月間 (2月末)	年初来 (15年12月末)
対円 (1レアル=30.66円)		(30.96円) <b>0.96%</b>	(28.05円) <b>9.29%</b>	(30.37円) <b>0.96%</b>
対ドル (1ドル=3.61レアル)		(3.43レアル) <b>5.14%</b>	(4.02レアル) <b>10.10%</b>	(3.96レアル) <b>8.82%</b>

### [内外要因に振られる]

汚職をめぐる2人目の閣僚辞任など、暫定政権の信任揺らぎ、レアル下落。一方、米利上げ時期後ずれ観測がレアル下支え。

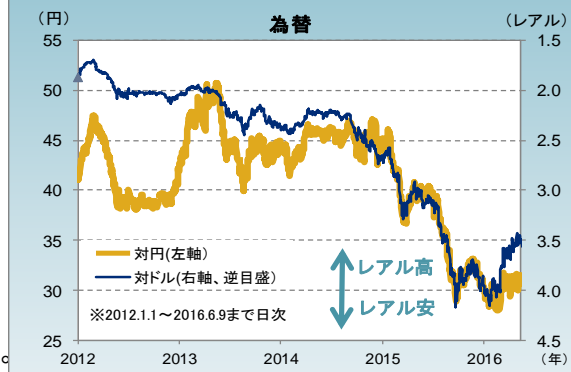
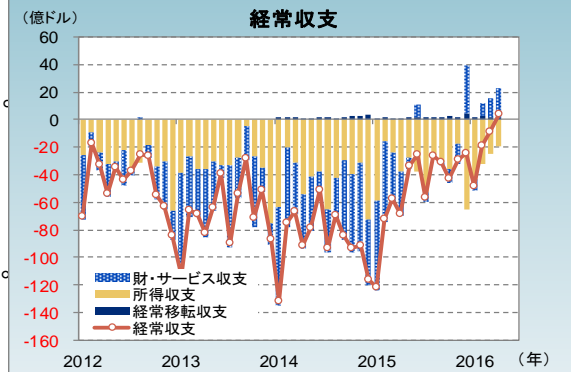
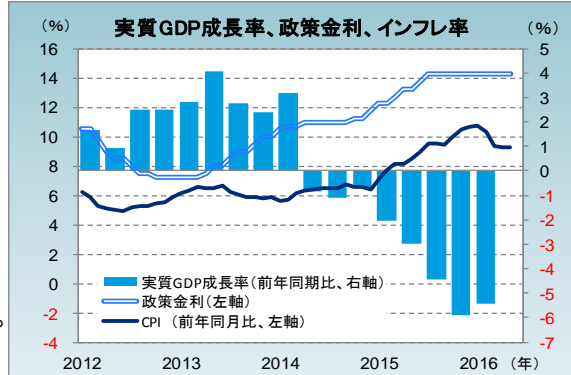
株式

〈騰落率〉

	(5月末)	1か月間 (4月末)	3か月間 (2月末)	年初来 (15年12月末)
ボベスパ指数 (48,471.71)		(53,910.51) <b>10.09%</b>	(42,793.86) <b>13.27%</b>	(43,349.96) <b>11.81%</b>

### [政治的混乱が重し]

「洗車作戦」で政府高官の汚職疑惑が相次ぎ、株価の重しに。一方でマイナスながらも市場予想上回るGDP発表が好感され、株式は上昇。



## オーストラリア

景気  
(実質)  
GDP

Q1GDP成長率  
**+3.1%**  
前年同期比



### [4年ぶり高成長]

中国の需要回復を受けた鉄鉱石など輸出が堅調、GDPへ最大寄与。2年ぶり低水準の失業率や低インフレを背景に個人消費や住宅投資が堅調に推移。

物価  
(CPI)

Q1インフレ率  
**+1.3%**  
前年同月比



### [想定以上のインフレ後退]

鉱業部門の設備投資低迷など企業業績不振や歳入減続く。賃金上昇率鈍化を背景にインフレ圧力後退懸念高まる。

金融  
政策

**1.75%**



### [2会合ぶり据え置き]

堅調な経済指標を背景に過去最低の金利を維持。緩和バイアスは示されず。低インフレと豪ドル高懸念は依然残る。

国際  
収支

Q1経常収支  
**-22**  
億豪ドル



### [輸出好調]

商品市況回復や中国向けの輸出が拡大。一方、鉱業部門低迷に伴う輸入減が純輸出の押し上げに寄与。

### 〈騰落率〉

	(5月末)	1ヵ月間 (4月末)	3ヵ月間 (2月末)	年初来 (15年12月末)
対円 (1豪ドル=80.08円)		(80.96円) <b>1.08%</b>	(80.48円) <b>0.50%</b>	(87.60円) <b>8.59%</b>
対ドル (1豪ドル=0.72ドル)		(0.76ドル) <b>4.93%</b>	(0.71ドル) <b>1.30%</b>	(0.73ドル) <b>0.73%</b>

### [上値重い]

好調なGDP発表を受け豪ドル反発するも、低インフレと豪ドル高を懸念する中銀の年内利下げ観測が上値の重しに。

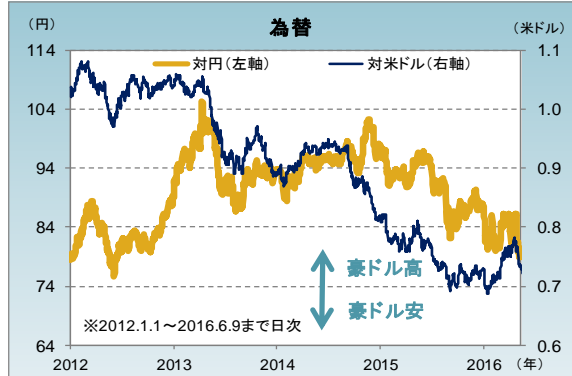
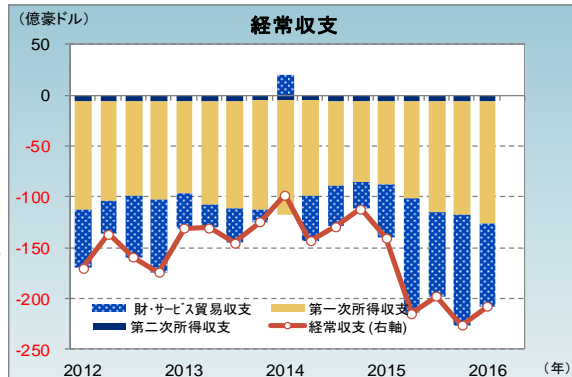
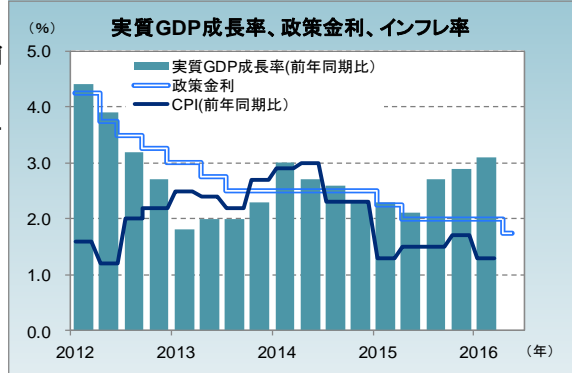
株式

### 〈騰落率〉

	(5月末)	1ヵ月間 (4月末)	3ヵ月間 (2月末)	年初来 (15年12月末)
S&P/ASX指数 (5,378.56)		(5,252.22) <b>2.41%</b>	(4,880.93) <b>10.20%</b>	(5,295.90) <b>1.56%</b>

### [利下げ好感]

鉄鉱石や金相場上昇を受け、金鉱などの資源株が好調。また相対的に高い配当利回りを好む海外からの投資資金流入。



## トルコ

景気  
(実質)  
GDP

Q1 GDP成長率  
**+4.8%**  
前年同期比

### 【大統領制へ前進】

エルドアン大統領は20年来の側近のエルドゥルム運輸海事通信相を新首相に任命。悲願の大統領制へ向け前進。エルドアン独裁への政治リスク懸念高まる。

物価  
(CPI)

5月インフレ率  
**+6.58%**  
前年同期比

### 【ほぼ変わらず】

変動大きい食料・エネルギー除いたコアCPIは前年比+9.41%→+8.77%へ改善。中銀の利下げを後押しする地合い。

金融  
政策

**7.5%**

### 【利下げ期待高まる】

景気浮揚のための利下げ促すエルドアン大統領の重圧に加え、コアインフレの改善が利下げ機運の後押しに。

国際  
収支

4月貿易収支  
**-42.1**  
億ドル

### 【赤字改善】

水産物、鉱物などの輸入急減で貿易赤字縮小。貿易相手国上位の英国のEU離脱はトルコにも多大な影響となる懸念も。

為替

〈騰落率〉

	(5月末)	1か月間 (4月末)	3か月間 (2月末)	年初来 (15年12月末)
対円 (1リラ=37.55円)		(38.23円) <b>1.80%</b>	(38.00円) <b>1.20%</b>	(41.25円) <b>8.95%</b>
対ドル (1ドル=2.95リラ)		(2.80リラ) <b>5.50%</b>	(2.97リラ) <b>0.53%</b>	(2.92リラ) <b>1.09%</b>

### 【上値重い】

首相交代でエルドアンノミクス加速、中銀への利下げ圧力高まるなどの政治的リスクや、連日テロが続く地政学リスクの高まりを背景に売られやすい展開。

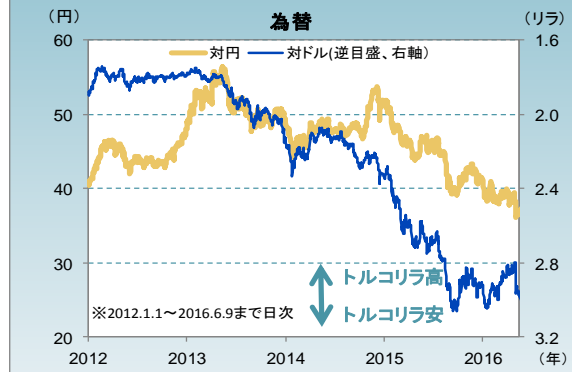
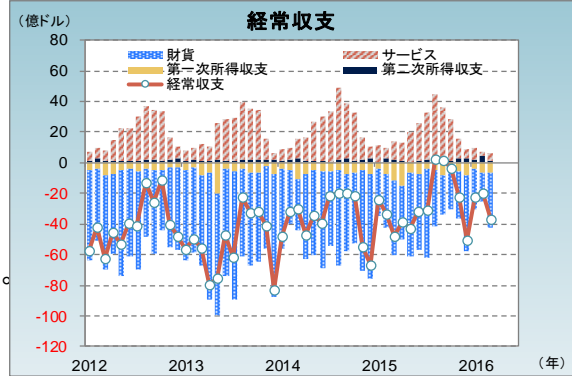
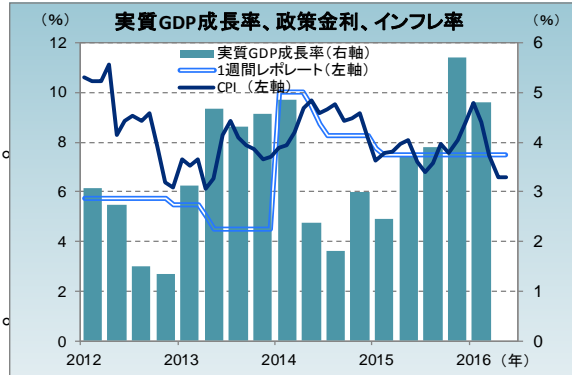
株式

〈騰落率〉

	(5月末)	1か月間 (4月末)	3か月間 (2月末)	年初来 (15年12月末)
イスタンブール 100種指数 (77,803.41)		(85,327.80) <b>8.82%</b>	(75,814.41) <b>2.62%</b>	(71,726.99) <b>8.47%</b>

### 【内外要因】

大都市での相次ぐテロといった国内要因に加え、英国のEU離脱問題や米国利上げ観測等、外部要因に振られる展開。



## メキシコ

景気  
(実質)  
GDP

Q1 GDP成長率  
**+2.7%**  
前年同期比

### [見通し引き下げ]

ペソ安にもかかわらず伸び悩む輸出や原油減産を背景に、政府は16年成長見通しを2.6~3.6→2.2~3.2%へ下方修正。弱含む製造業を堅調なサービス業が補う。

物価

5月インフレ率  
**+2.6%**  
前年同期比

### [歴史的低インフレ]

インフレ率は年内に目標+3%をわずかに上回るも年末には再度下落するとの中銀見通し。歴史的低インフレ続く公算。

金融  
政策

**3.75%**

### [利上げ期待高まる]

中銀は長引く通貨安によるインフレ圧力を注視。一方、軟調なペソ下支えのため次回会合で利上げとの市場観測高まる。

国際  
収支

4月貿易収支  
**-20.8**  
億ドル

### [赤字へ転落]

石油輸出低迷に加え、製造業不振による非石油製品輸出が落ち込み、黒字を計上した先月より一転、貿易赤字へ。

為替

〈騰落率〉

(5月末)	1か月 (4月末)	3か月 (2月末)	年初来 (15年12月末)
対円 (1ペソ=6.00円)	(6.20円) <b>3.30%</b>	(6.21円) <b>3.51%</b>	(6.99円) <b>14.25%</b>
対ドル (1ドル=18.47ペソ)	(17.18ペソ) <b>7.50%</b>	(18.14ペソ) <b>1.83%</b>	(17.20ペソ) <b>7.36%</b>

### [対ドル上値重い]

世界経済の減速で恒常的な双子の赤字が浮き彫りに。米大統領選トランプ氏台頭もペソの重しに。当面は上値重いか。

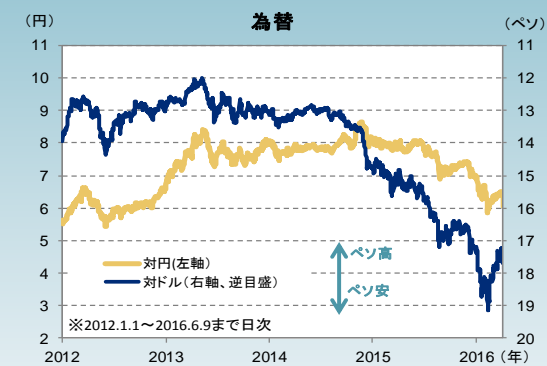
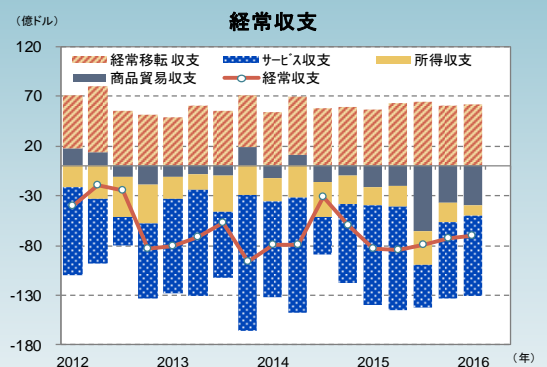
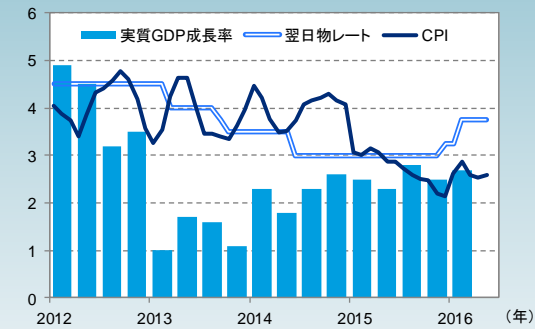
〈騰落率〉

(5月末)	1か月 (4月末)	3か月 (2月末)	年初来 (15年12月末)
ボルサ指数 (45,459.45)	(45,784.77) <b>0.71%</b>	(43,714.93) <b>3.99%</b>	(42,977.50) <b>5.77%</b>

### [底堅い展開か]

底堅い経済成長が投資妙味。米利上げ時期後退による海外からの投資資金流入も期待。

実質GDP成長率、政策金利、インフレ率



## 南アフリカ

景気  
(実質)  
GDP



**[予想以上の減速]**

需要減で鉱業が-8.5%、干ばつの影響で農業が-2.9%とマイナスに寄与。ズマ大統領を中心とした政局不安が財政安定の足かせとなり、格下げ不安残る。

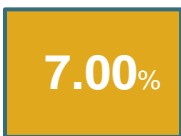
物価



**[微減]**

通貨安に伴う輸入インフレと干ばつの影響による食料品価格上昇を、ガソリン安を背景とした交通費減少が相殺。

金融  
政策



**[利上げ小休止]**

インフレ落ち着きで利上げ一旦休止。中銀は物価が今後数ヵ月で再度上昇する見通しを示し、インフレ抑制姿勢を強調。

国際  
収支



**[黒字減少]**

貴金属、鉱物の輸出が落ち込み、黒字幅縮小するも、2期連続の貿易黒字で市場予想を上回る。

為替

〈騰落率〉

(5月末)	1ヵ月 (4月末)	3ヵ月 (2月末)	年初来 (15年12月末)
対円 (1ランド=7.05円)	(7.47円) <b>5.68%</b>	(7.10円) <b>0.69%</b>	(7.78円) <b>9.37%</b>
対ドル (1ドル=15.71ランド)	(14.23ランド) <b>10.43%</b>	(15.87ランド) <b>1.02%</b>	(15.48ランド) <b>1.51%</b>

**[上値重い]**

大手格付け会社S&Pとフィッチによる投資不適格債への格下げ回避や、貿易収支改善を受けランドは一時反発するも上値重い。

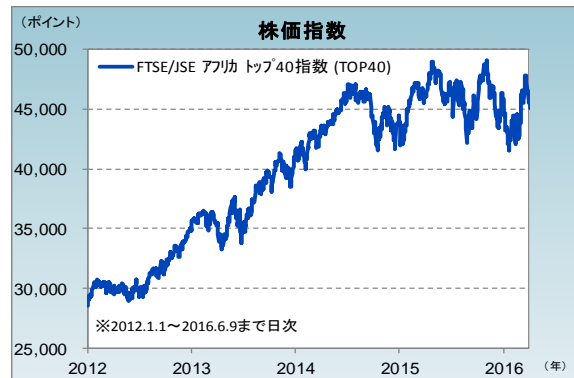
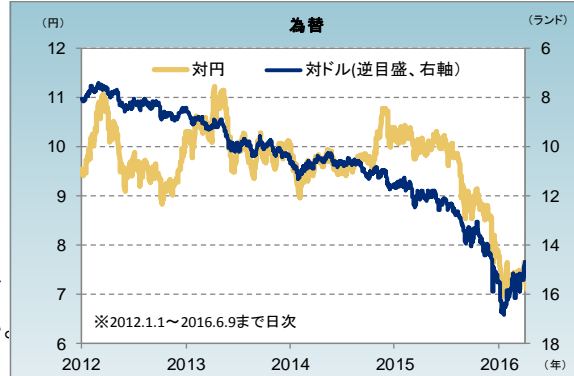
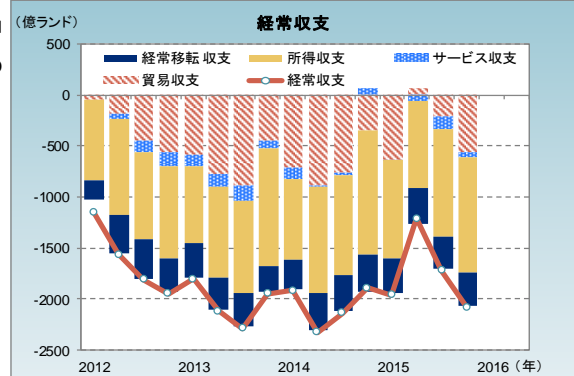
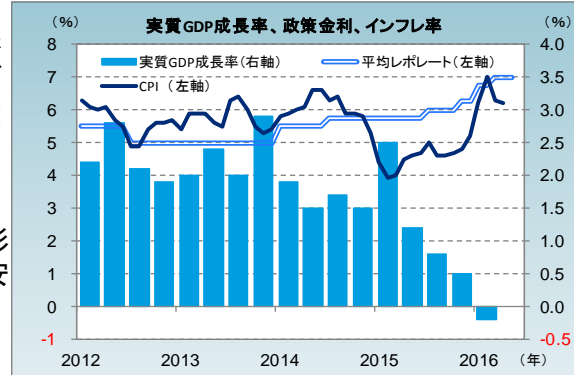
株式

〈騰落率〉

(5月末)	1ヵ月 (4月末)	3ヵ月 (2月末)	年初来 (15年12月末)
TOP40株価指数 (47,974.09)	(46,471.00) <b>3.23%</b>	(43,802.56) <b>9.52%</b>	(45,797.30) <b>4.75%</b>

**[資源株好調]**

金価格上昇を受け金関連などが上昇。下値堅いか。



## 中国

景気  
(実質)  
GDP

Q1GDP成長率  
**+6.7%**  
前年同期比

### 【政府主導で持ち直し】

雇用環境悪化で個人消費低迷。政府主導の固定資産投資、インフラ投資がけん引役に。利下げや規制緩和を受けた不動産投資が持ち直しの動き。

物価

5月インフレ率  
**+2.0%**  
前年同月比

### 【鈍化】

食品価格上昇和らぎ、予想下回る伸び。一方、生産者物価指数は政府投資支出拡大や商品価格回復で下落幅縮小。

金融  
政策

**4.35%**

### 【不動産バブル懸念】

度重なる金融緩和による「カネ余り」現象が不動産バブルを創出する一方、デysinフレが混在するなど難しい舵取り。

国際  
収支

5月貿易収支  
**+500**  
億ドル

### 【マイナス幅縮小】

輸出(前年比-4.1%)輸入(同-0.4%)共に前年割れ続くも市場予想より良好。資源価格底打ちと共に内需回復の兆しか。

〈騰落率〉

為替

(5月末)	1カ月 (4月末)	3カ月 (2月末)	年初来 (15年12月末)
対円 (1元=16.83円)	(16.42円) <b>2.48%</b>	(17.20円) <b>2.15%</b>	(18.52円) <b>9.14%</b>
対ドル (1ドル=6.58元)	(6.48元) <b>1.63%</b>	(6.55元) <b>0.43%</b>	(6.49元) <b>1.37%</b>

### 【外貨準備高急減】

5月末の外貨準備高が4年5か月ぶり低水準。米利上げ観測に伴う元安阻止のための市場介入が原因か。資本流出懸念高まる。

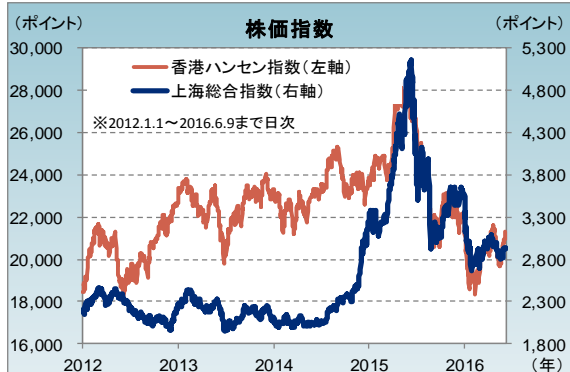
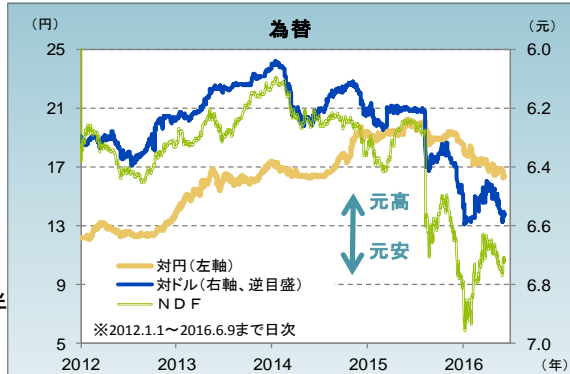
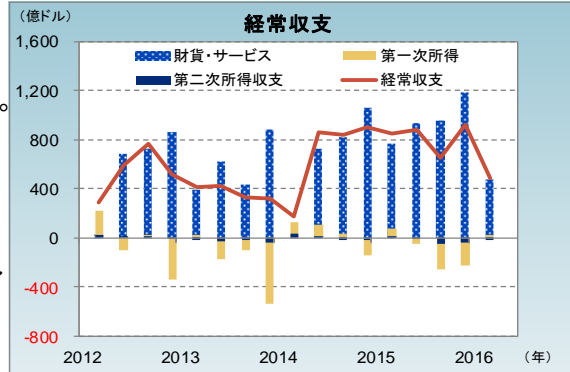
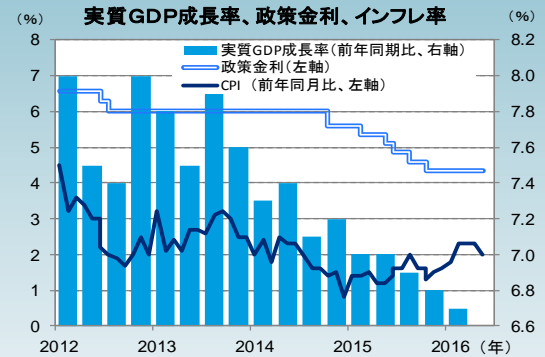
〈騰落率〉

株式

(5月末)	1カ月 (4月末)	3カ月 (2月末)	年初来 (15年12月末)
上海総合指数 (2,916.62)	(2,938.32) <b>0.74%</b>	(2,687.98) <b>8.51%</b>	(3,539.18) <b>17.59%</b>
香港ハンセン指数 (20,815.09)	(21,067.05) <b>1.20%</b>	(19,111.93) <b>8.91%</b>	(21,914.40) <b>5.02%</b>

### 【規制改革】

MSCIの新興国株価指数への本土A株の採用目指し、規制改革進む。採用実現すると10年で4000億ドル流入する見込み。



## 当資料に関してご留意いただきたい事項

### 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等を要因として、基準価額の下落により損失が生じ、投資元金を割り込むことがあります。したがって、元金が保証されているものではありません。また、投資信託は預貯金とは異なります。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なります。お申込みの際は投資信託説明書(交付目論見書)・契約締結前交付書面をよくご覧ください。

### 投資信託に係る費用について

投資信託では、一般的に次の手数料・費用をご負担いただきます。その料率は投資信託によって異なります。さらに、下記以外の手数料・費用をご負担いただく場合、一部の手数料・費用をご負担いただかない場合もあります。詳細は、投資信託説明書(交付目論見書)・契約締結前交付書面をご覧ください。または、販売会社へお問い合わせください(カッコ内には、アムンディ・ジャパン株式会社が設定・運用する公募投資信託のうち、最も高い料率を記載しています。)

投資信託の購入時:購入時手数料[最高料率3.78%(税込)]

投資信託の換金時:信託財産留保額[最高料率1.0%]

投資信託の保有時:運用管理費用(信託報酬)[実質最高料率2.2312%(税込)]、監査費用

運用管理費用(信託報酬)、監査費用は、信託財産の中から日々控除され、間接的に投資者の負担となります。その他に有価証券売買時の売買委託手数料、外貨建資産の保管費用、信託財産における租税費用等を間接的にご負担いただきます。また、他の投資信託へ投資する投資信託の場合には、当該投資信託において上記の手数料・費用が掛かることがあります。

※上記の費用の合計額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することはできません。

### <ご注意>

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、お申込みの際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

アムンディ・ジャパン株式会社

金融商品取引業者:関東財務局長(金商)第350号

加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会

### 【当資料のご利用にあたっての注意事項等】

当資料は、アムンディ・ジャパン株式会社(以下、弊社)が投資家の皆さまに情報提供を行う目的で作成したものであり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。当資料は法令に基づく開示資料ではありません。当資料の作成にあたり、弊社は情報の正確性等について細心の注意を払っておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に記載した弊社の見通し、予測、予想、意見等(以下、見通し等)は、当資料作成日現在のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。また当資料に記載した弊社の見通し等は将来の景気や株価等の動きを保証するものではありません。